

No.596

MAY  
2026



# ほげまし

For the Riot Policemen  
& Members

一般社団法人 機動隊員等を励ます会



水没した車内から救出する状況（警視庁広域緊急援助隊合同訓練）

## CONTENTS

P2 警視庁 広域緊急援助隊合同訓練

P3 全国優秀機動隊員研修を支援

P4 名古屋支部激励会

P4 交流激励会開催予定

P5 東京マラソン

P6-8 Member's Lounge



被災者を搬送する訓練

# 警視庁広域緊急援助隊合同訓練

## 災害救助訓練に227名が参加

大規模災害における対応能力の向上と部隊相互の連携強化に向けて、広域緊急援助隊による災害救助訓練が実施された。

大規模災害発生時に広域的な連携体制の強化を図り、各部隊が持つ高度な救助技術や知識を共有・統一することで迅速かつ的確な救助活動を展開するため、警視庁警備部は2月19日・20日の2日間、東京都立川市の警視庁・東日本災害警備訓練施設において災害救助訓練を実施した。

訓練には警視庁のほかに、栃木、埼玉、千葉、神奈川、山梨、長野、静岡県  
の広域緊急援助隊を含む関係者227名が参加した。



土砂に埋まった車内からの救出救助訓練

# 全国優秀機動隊員研修を支援

今年も3月2日に警察庁警備局長による全国優秀機動隊員表彰が行われた。受賞者は全国の機動隊より選ばれた俊英90名。警察庁での表彰式の後、ホテル椿山荘東京にて、機動隊員等を励ます会主催の祝賀会が開催された。来賓の高橋清孝日本製鉄顧問(第92代警視総監、第20代内閣危機管理監)は、お祝いの言葉とともに少し訓辞めくが、と前置きし、「機動隊は治安の最後の砦と言われるし、そうでなければならないが、それだけではなく最前線の治安の守りの役割りも大きい。社会情勢、警備情勢はどんどん変化するので、そういう警備情勢を敏感に感じ取って、警戒警備、警護警備を行うことが必要です。また、警備を完遂したとよく言うが、警備に完遂というはあるのだろうか？結果オーライで終わったことも完遂と言って自己満足に終わっていないだろうか？自分の反省を込めてそういう思いがしている。都度、謙虚に反省をしたり、見直したりしてレベルアップしてほしい。」と述べられた。

翌3日は、日本製鉄(株)東日本製鉄所君津地区の工場見学を実施。君津地区では、日本製鉄及び製鉄所の概要説明のあと、第4高炉工場、熱延工場を見学し、製鉄所の保安体制についての説明を受けた。あいにくの雨のため、第4高炉工場はバスの中からの見学となったものの、それぞれの設備の規模に圧倒されるとの声が聞かれた。その後、富津の日本製鉄(株)RE (Research&Engineering)センターに移動し、展示室で鉄鋼の研究開発に関する説明を受け、鉄の開発に係る様々な取り組みについて、熱心に聞いていた。

製鉄所をあとにして、商業施設を見学したのち、オークラアカデミアパークホテルにて、機動隊員の皆さんによる課題検討研修会が行われたのち、平安の間にて会食となった。

縦割りになりがちな警察組織において、近い年代の機動隊員が親睦を深め、情報交換を行うなど、横の連携を強める良い機会になった。会食後もそれぞれラウンジや部屋で引き続き、親睦を深めた。

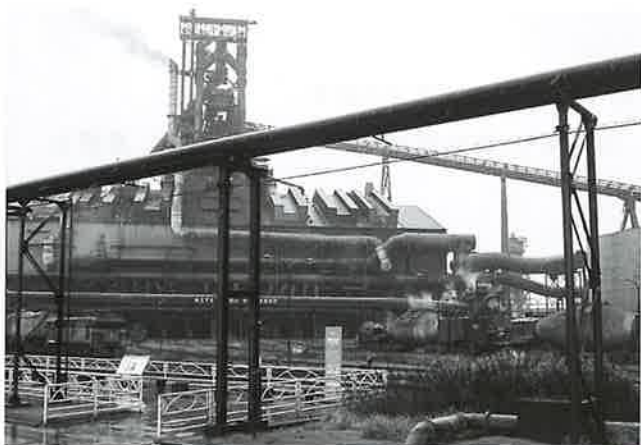
4日の朝、アクアラインで製鉄所を左に見つつ、正面に富士山を眺めながらの帰路となった。



祝賀会での日本製鉄高橋顧問の祝辞



東日本製鉄所君津地区での製鉄所概要説明



東日本製鉄所君津地区第4高炉工場見学



オークラアカデミアパークホテルでの交流

# 第45回名古屋支部激励会

2月27日 メルパルク名古屋

## 270名が参集し親睦を深める

去る2月27日に開催された名古屋支部激励会では、愛知・岐阜・三重の機動隊員約100名のほか、警察幹部や当会会員の総勢270名が一堂に会して親交を深めた。

愛知県東海市の和太鼓グループ「おうめいざ 嘯鳴座」による演奏で幕を開けた名古屋支部激励会。開会にあたり廣部貴巳名古屋支部長は、「本年9月から第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会が名古屋で開催され、世界各国から多数の選手団が来日する。こういった国際的な大規模イベントの警備における機動隊員の皆様の精神的・肉体的な負荷は我々の想像を絶するものと思っている。改めて感謝と敬意を伝えたい」と挨拶した。



全国優秀機動隊員紹介

また、中村真一理事長は様々な重要任務を完遂した機動隊員への感謝を伝え、「機動隊員と会員、会員同士、機動隊員同士の懇親を深める年に一度の激励会で、激励、懇親の実をあげてほしい」と述べた。

来賓の佐藤隆司愛知県警察本部長は、昨年完遂した重要任務について報告するとともに、本年開催予定のアジア競技大会に向けて、「各部隊員は大会の安全かつ円滑な開催を確保するため様々な訓練を積み重ね、テロ等の違法行為を未然防止するための対

処能力の向上に日々邁進している」と述べた。

続いて8名の全国優秀機動隊員が紹介され、激励会に出席していた6名が登壇。その後、平光範之氏（日本製鉄㈱常務執行役員



廣部貴巳 支部長



中村真一 理事長



佐藤隆司 本部長



平光範之 所長



長島弘人 機動隊長



高野賢一 支店長

名古屋製鉄所長）が乾杯の発声を行った。

懇談の時間には機動隊の日頃の活動が映像で紹介され、最後は全員で輪になって「この世を花にするために」を斉唱。長島弘人愛知県警察機動隊長は、「近年の治安情勢は厳しさを増しているが、治安の最後の砦としてあらゆる脅威に対処していくため、今後も精進して参ります」と抱負を述べ、最後に高野賢一氏（日本製鉄㈱参与 名古屋支店長）による万歳三唱で閉会となった。

## 交流激励会開催予定

機動隊員との交流激励会は4月22日の東北支部を皮切りに、全国で開催されます。

機動隊員の皆さまを激励し、会員と機動隊員の皆さま、会員同士、機動隊員同士の懇親を深める、重要なイベントです。会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

### 2026年

4月22日(水) 東北支部(江陽グランドホテル)

6月 3日(水) 定時総会・激励会(明治記念館)

11月2日(月) 九州支部(福岡リーセントホテル)

### 2027年

2月15日(月) 千葉支部(ホテルポートプラザちば)

2月26日(金) 名古屋支部(ホテルメルパルク名古屋)

注) 北海道、北陸、大阪、中国四国各支部は日程調整中



「嘯鳴座」による和太鼓演奏



「この世を花にするために」斉唱

# 東京マラソン2026

## 3万9000人が参加したマラソン大会を警備

国内最大規模を誇る大都市マラソン大会が今年も開催され、機動隊員等が警備にあたった。

絶好の陽気に恵まれて格好のスポーツ日和となった3月1日、今回で19回目となる東京マラソン2026が開催され、国内外のトップランナーから一般ランナーまで総勢3万8773人(速報値)が参加した。

警視庁機動隊はテロ対策として、コース周辺や駅構内などに不審物がないかを事前に点検。当日は大規模な交通規制を実施し、警備を完遂した。



スタート地点での警備



車両突入阻止対策



外国人観光客への地理教示



皇居周辺での車両通行規制



ゴール近辺での警備広報活動

## 習近平の政治家像と 国政運営、対外政策の要点 ～ 3期目途中までの総括～



●3月19日のゲスト.....

すず き たかし  
**鈴木 隆氏**

・大東文化大学 東洋研究所 教授

### PROFILE

1973年、静岡県生まれ。専門は政治学、中国政治【学歴】慶應義塾大学法学部政治学科卒業、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻、博士課程退学、博士（法学、慶應義塾大学）【経歴】愛知県立大学外国語学部専任講師・同准教授などを経て、2023年より現職。日本国際問題研究所研究員、ロシア国立サンクトペテルブルグ大学訪問研究員などを歴任。現職として、アジア政経学会理事、日本現代中国学会理事、日本国際問題研究所機関誌『国際問題』編集委員、霞山会機関誌『東亜』編集委員、「東洋経済オンライン」の連載執筆メンバーなど【主な受賞歴】『習近平研究：支配体制と指導者の実像』（東京大学出版会、2025年）により第37回アジア太平洋賞 大賞受賞（毎日新聞・アジア調査会、2025年）、『中国共産党の支配と権力：党と新興の社会経済エリート』（慶應義塾大学出版会、2012年）により第34回発展途上国研究奨励賞受賞（日本貿易振興機構JETROアジア経済研究所、2013年）

国際情勢が混迷を深めるなか、アメリカと並ぶ超大国として、その一挙一動が世界中から注目を集める中国。最高指導者に君臨して以来、その舵取り役を一手に担う習近平国家主席の政治指導者としての実像と国政運営の手法について、中国政治を専門とする政治学者である鈴木隆氏にお話をいただいた。

### 1. 習近平を取り巻く状況と指導者像

習近平政権はいま3期目途中ですが、2027年の秋におそらく次の党大会が開かれ、その後、少なくとも軍のトップの役職は維持しながら事実上の4期目に入ると思います。国家元首でない場合に「最高指導者」と正式に言えるかどうか別にして、「最高実力者」としては変わらずに27年から32年の4期目も続けるであろうというのが現状の判断ということになります。

習氏が最高指導者としていま取り組んでいる中国の政治・経済・社会の状況は、以前とは大きく異なっています。政治では、複数の有力な指導者間の競合による集団指導体制が終わりました。軍の内部資料などを見ると、重要事項のすべてを習氏が個人として単独で決裁すると書いてありますので、文字通りの個人独裁です。経済では高度成長が終わり、現状では潜在成長率が1～2%。あるエコノミストによれば、2025年は外需のドライブがなければおそらくマイナス成長だったというくらい景気は悪いです。社会においては過去何千年間の中国史のなかで初めて恒常的かつ不可逆的に、しかも急速なペースで人口減少が進んでいます。これほど急激なスピードで人口が減少していることを考えると、将来的には商品をつくっても買ってくれる人がいないということになります。

1953年生まれの習氏は今年で73歳になります。中華人民共和国の建国が1949年ですから、中国の最高指導者としては国ができた後に生まれた初めてのリーダーです。基本的にはできあがった秩序や規律、組織の中で成長してきた習氏は、そういう意味では保守主義の官僚政治家です。これが、彼が持つ三つの側面の一つ目です。二つ目は実戦経験こそありませんが、軍や軍人のことをよくわかっているという自負を持っている軍人政治家だということ。そしてもう一つが、25年間に及ぶ地方指導者としての長いキャリアです。しかも、台湾正面であり海に面した福建省に最も長くいたことが非常に特徴的であると思います。

### 2. 出自と血統への強い自負と責任感

習氏を理解するうえで最も重要なことは、政治的な出自と血統に対する強い自負と責任感だと思います。父親が建国の元勳グループに連なる人物であり、言ってみれば会社の創業家の一員の係累です。江沢民、胡錦濤と生え抜きの指導者が二代続き、この間腐敗や経済的な行き詰まりなど様々な問題が蓄積するなか、もう一度創業家の求心力を高めるということで呼び戻されたという側面はおそらくあります。そういう人なので自分の責任感というのが尋常ではないわけですね。

彼の演説に多く登場するキーワードのなかで私が大事だと思っているのは、「バトンリレー」という言葉です。自分がバトンを受け継いで次世代以降にしっかりとそのバトンを渡さなければいけない。これは政権をきちんと渡していくということです。自分が亡くなった後、あの世で亡き父や先輩指導者にどういふ顔向けができるかということを考えていると思います。政治家としては特異な歴史的な時間感覚を持っています。

政治における習氏の師匠は何と言っても毛沢東です。彼がいま国政の目標として掲げている「社会主義現代化強国」という言葉も、もともとは毛沢東が述べた言葉でした。歴史に自分が何を残せるかを考えた時に、大体のことは前任者たちがやっているわけで、そうなる外環境の変化に応じた外交安全保障の分野が、自分に残された比較的大きな政治的余白ということになります。なかでも海洋進出や軍の近代化、台湾統一などに強いこだわりを持っていて、これらをすべて成し遂げた時に、「屈辱の近代」すなわち近代に中国が被った屈辱のすべてについて、歴史を上書きできると考えています。

### 3. 支配体制の永続化と覇権実現に向けて

国政のトップに立って以降、習氏が何を目指して何をやってきたのか、そして今後何をするのか。それは、バトンをきちんと受け渡す、つまり共産党の支配体制を永続化していくことと、それを前提として21世紀半ばまでに覇権を実現することです。部下たちに目的意識を共有させるためシンプルな目標を掲げ、それを長期的に堅持、実行していくことをやっています。具体的な統治の三本柱として、一つ目は、中華民族の偉大な復興を実現すること。二つ目は支配体制を守ること。そして三つ目は領土拡大と海洋進出の積極化です。

習近平時代は少なくとも2030年代いっぱいまでは続く可能性があります。1950年代～70年代までの30年間続いた毛沢東政権のような自分一人だけでやる「狭義の習近平時代」、あるいは1980年代～2000

年代の30年間に及ぶ鄧小平と後継者ふたりによる政権のように、自身と後継者の任期を含む「広義の習近平時代」のどちらになるかわかりませんが、2010年代～30年代いっぱいには続く可能性が高いです。突発的な事件事故を除けば、予想される政治的リスクは、習氏の心身の健康の問題ということになります。

### 4. 経済観念と経済・社会政策

メディアの報道では中国経済に関して大きく二つのイメージがあると思います。一つは非常に強力なサプライチェーンや科学技術を有し、「国家のパワー (state power)」として強い経済力を持っているというイメージ。他方で、若者を中心に雇用状況が悪く、内需がふるわず消費が不振であることも伝えられており、この点で「国民の福祉 (national welfare)」の側面では中国経済の弱さが目立つ。習氏の立場から見ると、このふたつは矛盾しているというよりは、「国家のパワー」としての経済には関心はあるけれども、「国民の福祉」の経済にはあまり関心が無いという感じです。

前者の側面には関心が高く、そこに資源を投入しています。後者の側面については、本来であれば社会保障などの再分配政策にきちんと対応すべきです。しかし習氏は、自称マルクス主義者ですが格差是正にはあまり興味がありません。この問題はいずれ持続可能性の問題に行き着きます。「国家のパワー」としての経済を強くしつつ、「国民の福祉」的な側面が弱い経済には持続可能性が無いからです。政治と経済における持続可能性の問題が、習近平時代の中国を考えるうえでは最も大事なキーワードになると思います。

習氏の経済政策における優先順位はやはりアメリカとの覇権競争にどうやって勝つかであり、そのためにはまずは持続的な経済成長を、次にイノベーション手段としての科学技術の開発を重視しています。短期的には市場や内需、消費の拡大が大事だと思っていることは間違いありませんが、先般採択された第15次五カ年計画で示されたように、向こう5年間で言うとお金の

かけどころはやはり科学技術開発や製造業の高度化の方面であり、従来からの基本方針が続いていくということになります。

### 5. 2030年代前半における台湾有時リスクの高まり

2027年に台湾海峡で武力紛争が起こる可能性が取り沙汰されていますが、一部の安全保障分野の専門家を除けば、日本の中国研究者や台湾研究者で27年の有事発生をまじめに主張している人はごく少数だと思います。それは今年11月に統一地方選挙、2028年1月に次の総統選挙がある台湾の政治日程を考えれば明らかです。27年に中台間で軍事的緊張が高まれば、28年の総統選挙で反中国の指導者が当選するのをサポートするだけでしょう。

しかし、これも政治的なスケジュールで考えると、2032～2035年にはいろいろな要素が重なるので軍事的なリスクが高まる可能性があります。例えば2032年はこのままいくと大陸では習氏の4期目が終わる時になります。台湾の総統選挙もアメリカ大統領選挙も2032年に重なります。この三つの統治者の権力の継承や交代期に入るのがちょうど2032年です。もう一つは2035年で、習氏がおそらく自分が名目的にもトップでいられる最後の瞬間だと思っている可能性が高いと思います。この時に彼は82～83歳ですので、様々なスケジュール的な要素から言うと、2032～2035年くらいが台湾海峡での武力紛争のリスクが高い時期であると考えられます。

習氏にとって台湾統一というのは、やはり個人的にも思い入れのあるテーマだと思います。毛沢東や鄧小平のように国民党と共産党の内戦を戦ってきた人にとって、台湾は国民党の蟠踞している未回収の土地という感じです。江沢民や胡錦濤にとっては、自分が受け継いできた政権にとっての重要課題に対して統一のための尽力をするということだったと思います。これに対して習氏は17年間にわたって福建省にいて、日常業務でも台湾とのやり取りがありました。漁船や漁民が嵐に出くわしたら台湾の船が福建省の港に避難しに來たり、その逆

もあつたりですね。密漁や密輸、密航で捕まえたり捕まえられたりということもありました。何より1995～96年と1999～2000年には台湾海峡で軍事的な危機があり、その時に彼はその場にいたのです。習氏はおそらく95～96年の第三次台湾海峡危機の時に、同海峡に派遣されたアメリカの空母の様子を見たと思います。屈辱の気持ちが強かったでしょう。台湾問題の「解決」には、そういう屈辱心を晴らすという意味も含まれます。

## 6. プーチン大統領との共通点と相違点

習近平とプーチン、現代世界を代表するふたりの独裁者は確かに世界観や物事の見方が似ていて、欧米に対する被害者意識が強いです。政策論も似ています。一方で、違うところもあります。台湾海峡での武力紛争の防止を考えるうえでは、この相違点が重要です。

詰まるところ、プーチンは自分と自分の家族が天寿を全うできればそれでよい、自分が死んだ後の国家の状況がどうなるかと知ったことではない、と考えているように思います。そうでないと、30万人の死者、100万人の死傷者ともいわれるほどの大戦争を続けられないでしょう。一方、習氏はそのような多大な犠牲を伴う大戦争はできません。もしそうなれば、自分の身もちろん危ないし、家業としての共産党体制自体が動揺、崩壊するリスクが高まるからです。一人支配と一党支配の違いは、「戦争被害への敏感性」の違いでもあります。武力行使を行うハードルはプーチンよりも習氏のほうが高いことは確かです。この点を十分に理解し、日本を含む関係国が必要な抑止力の整備をきちんと行っていけば、台湾有事は十分に防ぐことができます。

国家と個人のアイデンティティーが密着している習氏にとって、支配体制を守ること

が第一の要務であり、それを動揺させるような対外戦争はそう簡単にはできません。これがプーチンとの大きな違いです。

## 講演後質疑応答

**Q** 中国の人々が持つ数千年の歴史への自尊心とは、具体的にどのあたりを指していますか。

**A** 例えば九州大学の益尾知佐子先生はご著書『中国の行動原理』のなかで、「中国の指導者は国際政治におけるpowerとdignityの両方の承認欲求が強い。同時に、指導者を含め多くの中国人が周辺国に対して無自覚に見下した気持ちを持っている」云々と述べています。中国の人々の意識の中には個別の国や民族に対してある種の「上から目線」があるということですね。これは否定できない事実だと思います。

## 今月の賛助広告会員

 合同製鐵株式会社  
GODO STEEL, LTD.

 東鋼業株式会社

 共英製鋼株式会社

 日鉄エンジニアリング

 NIPPON STEEL  
日鉄ドラム株式会社

 NIPPON STEEL  
日鉄物流株式会社


 SANWA  
三和運輸機工株式会社

 日鉄物産

 不動鋼板工業株式会社

株式会社エイヴイ

株式会社 カノークス

 芝本産業株式会社


 太陽サカコー製

 岡部株式会社


 藤田金属(株)

平和農産工業株式会社


 NIPPON STEEL  
日鉄建材株式会社

 NCT 新ケミカル商事

 NIPPON STEEL  
(株)山陽特殊製鋼株式会社

 東海レベラー鋼業株式会社

株式会社 廣澤精機製作所

 いつでも、どこでも、あたらしい  
五十鈴株式会社

 MIYAZAKI  
宮崎精鋼株式会社

素材を極め、未来を拓く  
For Your Dream & Happiness  
hem at  
日鉄ケミカル&マテリアル

 大阪製鐵株式会社

## 編集後記

ウクライナや中東での戦闘等地政学リスクが常態化し、首都直下型地震や富士山噴火のリスク、自然災害の激甚化に加え、トクリウウ事案やサイバー事案などのニュースが多くなり、何となく不安を感じる人が多いこの頃ですが、新隊員合同訓練等で若い機動隊員の皆さんの凛々しい姿を見ると少し気持ちが明るくなります。

はげまし  
No.596  
令和8年5月号

発行日 令和8年5月2日  
発行所 一般社団法人機動隊員等を励ます会  
発行人 中村真一

事務局 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館  
TEL.03-5614-0710 FAX.03-5614-0719  
Web:http://www.hagemashi.com  
Mail:jimukyoku@hagemashi.com